

## 平成 2 9 年度シラバス（総合実習）

学番 7 8 新潟県立海洋高等学校

教科（科目）	水産（総合実習）	単位数	2 単位	学年（コース）	3 学年（海洋創造コース）
使用教科書	なし				
副教材等	なし				

### 1 学習目標

海洋工事・海洋環境・ダイビングに関する総合的な知識と技術を習得させ、安全を重んじ技術の改善を図るとともに、実務に活用する能力と態度を育てます。

### 2 指導の重点

実際の産業現場において、安全を重んじる態度や技術の改善を図り、実務に活用することができる能力を育てるために、

- ① 海洋環境の調査方法、観測データの情報処理および採取生物の観察などに関する実践的な技術を習得することを目指します。
- ② 海洋工事に必要な遣形設置、捨石均し、水中溶接・溶断などの水中作業の技術をスクーバ潜水やヘルメット式潜水などの実習を通して習得することを目指します。
- ③ 6月に佐渡への航海実習を行い、海洋観測、ダイビング実習を行います。
- ④ 交流人口増加を目的とした地域振興活動に取り組むことで、専門技術を活用する能力の育成を目指します。

### 3 学習計画

月	単 元 名	教 材	学 習 活 動（指導内容）	時 間	評 価 方 法
4 5	○遣形設置（陸上） ○スクーバダイビング ○河川調査	○遣形製作・設置（陸上） ○スクーバダイビング ○河川基盤調査	○陸上での測量による遣形の設置方法を理解する。	6	○実習での行動 ○技能の到達度 ○レポート
			○ドライスーツを着用してのスクーバダイビングに習熟する。	4	
			○河川横断構造物などの現状を調査し、河川環境整備について理解する。	2	
6 7	○海洋丸乗船実習および佐渡ダイビング実習 ○産官学連携活動	○海洋観測の方法、潜水調査 ○地域振興活動	○海洋観測の方法を理解し、冷水下における潜水作業に習熟する。	6	○実習での行動 ○レポート
			○スノーケリング体験ツアーを立案・実施し地域振興について考察する。	6	
9 10	○石均し ○海洋観測データ処理 ○遣形設置（水中） ○水上・水中測量	○捨石均し（陸上） ○STDデータ処理 ○底質分析 ○遣形製作・設置（水中） ○捨石均し（水中）	○石均しの方法を理解し、作業に習熟する。	6	○実習での行動 ○技能の到達度 ○レポート
			○海洋観測データの処理法を理解する。	4	
			○底質の分析方法を理解する。 ○水上・水中での測量による遣形の設置方法を理解する。 ○音響測深器を用いた深浅測量の方法を理解する。	4	
11 12	○潜水作業	○捨石均し ○水中溶接・溶断	○水中での石均しの方法を理解し、作業に習熟する。 ○水中溶接及び溶断方法を理解し、技術に習熟する。	1 6	○実習での行動 ○技能の到達度 ○レポート
1 2	○送気式潜水	○ブーカー式潜水 ○ヘルメット式潜水	○送気式潜水（ブーカー式潜水・ヘルメット式潜水）の潜水技術に習熟する。	1 0	○実習での行動 ○レポート

計 6 4 時間（5 5 分授業）

### 4 課題・提出物等

○单元ごとにワークシートやレポートの提出を指示することがあります。

## 5 評価規準と評価方法

評価は次の4観点から行います。			
①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
○情報の整理・解析や水中作業、地域振興に関心や探求心を持ち、その意義や役割の理解および諸問題の解決を目指して、主体的に取り組むことができる。	○情報の整理・解析や水中作業、地域振興に関する諸問題を総合的な見地からの確に把握し、自ら考察を深め表現することができる。	○水中作業に関する基礎的・基本的な知識・技術を習得し、安全や環境に配慮し、ものづくりを合理的に計画し、その技術を適切に活用できる。	○情報の整理・解析や水中作業、地域振興に関する学習や実習を通して、基本的な概念や総合的な把握の仕方を習得し、各種海洋工事・調査におけるそれらの意義や役割を理解している。
<p>以上の観点を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業への取組(授業態度, 出席状況, 発表や討議の様子, 学習活動への参加状況など)</li> <li>○提出物などの内容および期限の順守</li> <li>○実習行動(安全への配慮, 班別活動の様子など)</li> <li>○実習における技術・技能の到達度</li> </ul> <p>などから、総合的に判断します。</p>			

## 6 担当者からの一言

自然環境の保全と人間生活との関係を理解し、人間と自然とが共生できる豊かな海を守り続けるために沿岸域の開発・整備事業のあり方を考える科目です。学習活動を通じて、海洋および陸上の建設工事の基本的な事ごら覚え、本県の水産業および沿岸域の社会基盤の整備・維持・管理に貢献する能力と態度を身につけるために努力しましょう。

(担当：金子義昂, 下越貴大, 長武範, 渡辺宏幸, 大島正明, 橋本拓実)